

ジュズカケハゼ

Chaenogobius laevis

ハゼ科



ジュズカケハゼ

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
ワシ・タカ

名前の由来

「数珠を掛けたハゼ」でその横縞（口を上、尾を下にして）を数珠に見立てたものか？「ハゼ（鯿・沙魚）」は「はじくる」のことで、「跳ねる魚」の意だという。

漢字名：数珠掛鯿

特定種

十勝では特になし。

（「関東地方のジュズカケハゼ」が環境省レッドデータ…

絶滅のおそれのある地域個体群(LP)に指定)

形態的特徴

全長5cm。体は明褐色で細長い。背ビレは2つある。体側に数本の暗色の横縞（口を上、尾を下にして）が見られることが多い。

成熟したメスは第1背ビレと第2背ビレが伸び、黒みを帯びるという。同年齢同士だとオスより大きい。

類似種と見分け方

ビリンゴ。

ジュズカケハゼは、こげ茶色の斑紋が網目状につながっていない。ただし、湖沼にはビリンゴに酷似した個体もいる。

ビリンゴには両目の間に眼上感覚管の大きな開孔が3対見られるが、ジュズカケハゼにはない（小さく多数）。

一生

産卵期は5～6月ごろ（東日本では3～5月、青森では5月頃、北海道では不明）。同属類似種のビリンゴの場合、大部分が1年で成熟するという。

中・下流の流れの中や湧水、湖沼や堀などに生息し、一生淡水に棲む。

寿命は3年程度だという。

生息環境・分布

中・下流の流れの中や湧水、湖沼や堀などに生息する。砂泥底を好む。一生淡水に棲む。

分布：日本特産種で、北海道～九州までに分布。

北海道には広く分布しており、十勝の河川に広く分布。下流域に多く、川辺の沼地にも生息する。畑脇の明渠や堤防脇の堤内排水路にも生息する。

食性

動物性。藻類やユスリカの幼虫、ヨコエビなどを食べる。

生活サイクル（産卵期以外はビリンゴの生態などから推測）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
産卵期					■	■						
孵化期						■	■	■				
幼魚期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
成魚期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
					産卵							
								3歳程度				

繁殖生態

産卵期は5～6月ごろ（東日本では3～5月、青森では5月頃、北海道では不明）。産卵場所は川底の石などの下、あるいは泥底に掘った奥行き6～20cmのトンネルの壁面。求愛時にはメスが婚姻色を発し、胸ビレ・尾柄・尾ビレを除く全身が黒くなり、体側に数条の黄色い横縞（口を上、尾を下にして）が現れる。巣穴を掘る場合は、オスが自力で掘り、メス同士がしばしば激しく争う。黒い円盤様のメ

スはオスに向かってあおるような求愛行動を取り、やがてオスとともに巣穴に入って約1日巣ごもりする。産卵数は100～500個。産卵後メスは去るが、オスは残り、口から出した泥で巣穴をふさいで（小穴あり、巣ごもり時もふさぐ）卵を守るという。（類似種のピリンゴの場合、約30日《水温10～15℃》でふ化するという）

他生物との関わり

藻類やユスリカの幼虫、ヨコエビを食べる。



ユスリカ科の仲間の幼虫



キタヨコエビ科の仲間（標本）

興味深い話

■ハゼ類は普通川底にいるが、ジュズカケハゼは水の中層に浮いていることが多いという。（ただし稚魚期には、ハゼ類のほとんどの種が遊泳生活をする《妹尾優二》）

■婚姻色はメスの方が顕著で、巣穴はオスが掘り、産卵後オスが卵を守る。

配慮事項

流れの緩い砂泥地を好むので、ワンドのある岸边や、湿原を流れる小川が必要。



ジュズカケハゼ幼魚の群

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監修、山と溪谷社 1989

「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社 1984

「川づくりのための魚類ガイド」北海道河川環境研究会、（財）北海道建設技術センター、2001

「検索入門 川と湖の魚②」川那部浩哉・水野信彦、保育社 1990

「原色日本淡水魚類図鑑」宮地傳三郎・川那部浩哉・水野信彦、

保育社、1963（1976全改訂新版）

「動物名の由来」中村浩、東京書籍、1981

★ 妹尾優二：（株）エコテック、流域生態研究所